

12月26日 校長講話

本来であれば、本年最後の登校日となる本日は、終業式という儀式があり、1年を振り返りながら節目の会をするところではありますが、本校は2学期制の学校で終業式がありませんので、本日は私の話をもって、1年のまとめの、節目の会としたいと思います。

令和5年は、コロナウイルスとの共存が始まり、社会全体が日常を止めない方向性に変わり、学校での学びも4年前の彩が蘇るそんな日々となりました。そうはいつでも、私もそうですが、あれ？コロナ前ってどうやっていたっけ？と、立ち止まり、考えることが何度もありました。前と同じことを復活させることもとても大切ではありますが、4年経った今、コロナによってもたらせたICT教育の加速という恩恵もあり、時代は日々変化し変わっていることを心に留めながら、新しいものを構築していく苦労もたくさん経験しました。以前と同じことをやっていると通用しない。10年ひと昔という言葉は、すでに1年ひと昔、あるいは1日ひと昔になりつつあるそんな変化がみられる中、なかなかの苦しい思いを経験した年でもありました。そんな中でも、皆さんが常に一生懸命に取り組んだ姿はとても印象深く、部活動や生徒会活動でも蟻ヶ崎高校の歴史を刻んでくれたこと、とても嬉しく思います。

京都の清水寺で行われる、毎年恒例行事である令和5年を象徴する漢字1文字が先日発表され、1年を通じて検討された所得税増税問題、定額減税、インボイス制度など、税にまつわる話題が続いた今年の社会情勢を反映した「税」という文字が1位に選ばれました。ちなみに、大学生向けキャリア情報サイト「t-news」の会員に聞いた統計では、1位が「嘘」、2位は「偽」これまた大学生が直面した世相を反映したものになっていました。私の1年を振り返った今年の漢字は「集」。皆で集まって意見を交換したり、たわいのないことで笑い合ったり、わいわい歓談したり、家族団らんであったりと、集まることの意味を今一度実感した年でありました。

さて、1年の振り返りを考えるとき、2つのポイントがあります。1つ目のポイントは印象に残っていることや達成できたことを思い出して肯定的に受け取ること、もう一つは、ネガティブなポイントとも向き合うこと。失敗や達成できなかったことを人のせいにせず、自分に足りなかったと見つめなおすことです。人生において、振り返りがなぜ必要かということ、それは自分を客観的に見つめることができるからですね。インディード社のキャリアガイドによりますと、1年の振り返りのための10の質問というものがあります。今年の楽しかったことは何か、何が一番時間とパワーとお金を使ったか、今年達成したかった目標は何か、失敗から学んだことは何か…などの中に、こんな質問があります。「今年感謝を伝えるべき人は誰か」というものです。

私たちは常に、今置かれている状況に感謝し、本校の生徒会が掲げる目標でもある「ありがとう」という気持ちを持ちながら生活できたらと思うところです。自分よがりな人生よりも、今ここにいられることに感謝しながら生きることによって穏やかで心豊かな生活ができ

ると考えます。

先日、長野県高等学校合唱フェスティバルが開催され、全県の合唱部生徒の発表の機会があり、招待演奏として「都留文科大学合唱団」にお越しいただきミニコンサートをしていただきました。都留文科大学合唱団は、全日本合唱コンクールにおいて13年連続全国大会出場、そのうち6回を全国で金賞を受賞している、いわば合唱界においては知らない人はいない有名な合唱団です。当日、素晴らしい演奏を披露していただいた後、さらに驚くことがありました。それは、学生さん方の演奏態度や、挨拶が素晴らしかったことに加え、お昼休憩から最後まで使っていただいた楽屋が、来た時よりも美しく整頓されていたということでした。昔、あるJリーグサッカーチームのユース選手たちが生活していた寮の、寮母さんのインタビューで、「ここから一流になった選手たちに共通していたことは、寮の部屋が綺麗に使われていた ということです」と答えられていたことを思い出します。一流と言われる彼らの根底には、常に使わせてもらっている施設や環境に敬意を示しながら、研鑽を積んでいるという事実が、結果、成績にもつながっているんだ と、そんなことをちよようど考えた年末です。

さて、3年生はいよいよ皆さんの夢の実現への挑戦が始まります。体調管理をしっかりし、成果が十分発揮できるよう、心から願っています。1,2年生の皆さんも、令和5年度の残りの3か月をどう過ごすか、ここまでの振り返りをしながら、1年使わせてもらった身の回りのさまざまな整理整頓も心掛け、穏やかに年末年始が過ごせますよう、お祈りしております。それでは1月にまた元気にお会いしましょう。